

令和5年12月17日

若者環境フォーラム2023

午後3時開会

○司会（小菌） 定刻になりましたので、ただいまより若者環境フォーラム2023をスタートします。本日は御参加いただきありがとうございます。

本日の司会を務めます世田谷区環境サポーターの小園です。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、開会に当たり、世田谷区環境政策部環境・エネルギー施策推進課の山本課長よりオープニングメッセージをいただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○山本環境・エネルギー施策推進課長 皆さん、こんにちは。世田谷区環境・エネルギー施策推進課長の山本です。本日は若者環境フォーラム2023に御参加いただきましてありがとうございます。

近年、世界各地で記録的な高温、大規模な森林火災、巨大化した台風など、地球温暖化の影響と考えられる気候変動が頻発し、甚大な被害が発生しております。今年の東京都心でも夏日の日数が過去最多となったほか、国内においても豪雨災害被害が発生するなど、気候変動を肌で感じる季節となっております。

世田谷区では、こうした気候危機の状況を踏まえまして、令和2年10月に世田谷区気候非常事態宣言を行い、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すことを表明しました。2050年の目標達成のためには、大人から子どもまで一人一人が気候危機問題を自分事として捉え、環境への影響を考えて行動を変えていくことが必要であります。自分たちに何ができるかを考え、行動変容を促すことを目的として、区では、若者たちが主体となった取組事例の発表や意見表明、また、若者同士の交流の場として令和3年度から若者環境フォーラムをオンラインで開催しております。これまでに参加いただいた方からは、服のリサイクルやフードロス削減など身近なことから取り組みたい、あるいは1人の100歩より100人の1歩が大切、今回の団体同士の集まりにより活動のモチベーションが上がったなどいろいろな声が聞かれました。

こうした取組を継続し、環境に配慮した行動を実践するきっかけづくりの輪を広げていくため、今年度も若者環境フォーラムを開催いたします。今年度も「『1人の100歩より100人の1歩』～できることからはじめよう！～」ということをテーマに、皆さんの今の最新の取組事例の共有、それから企業、NPO、行政、地域等との連携方法などの議論を通して、さらに多くの方の1歩、それから2歩、3歩と進めていければと思っております。また、私たち大人に対する意見や提案もしっかり受け止めて、一緒に考え、気候危機

に対するアクションを起こしていきたいと思っております。

今日このフォーラムを準備していただいた環境サポーターの皆さん、それから発表して下さる皆さんには心から感謝し、開会の挨拶といたします。

それでは、皆さん、よろしく願いいたします。

○司会 山本課長、ありがとうございました。

それでは、フォーラムの本題に入っていきます。中学生、高校生、大学生による事例発表とパネルディスカッションに入りたいと思います。

ここからは、NPO法人新宿環境活動ネット代表理事の飯田貴也さんに進行していただきます。飯田さん、よろしく願いいたします。

○飯田 ありがとうございます。改めまして、今御紹介いただきました新宿環境活動ネットという環境教育を推進するNPOで仕事をしています飯田といいます。今日はよろしく願います。

環境の仕事をするきっかけになったのは、高校1年生のときに、愛知万博という大きな環境イベントがあって、それに参加したことをきっかけです。21世紀は環境の時代だと思って、そこから高校、大学とずっと環境活動をして今に至るので、あのイベントがなかったら今の自分はいないと思います。今日は世田谷にゆかりのある環境活動をしている皆さんがお集まりいただいたと思うので、今日のイベントをきっかけに、何かしら学んでもらったり、あるいは交流してつながってもらったり、何かいいポジティブなきっかけになってほしいですし、僕自身も皆さんと一緒にお話を進められることをすごく楽しみにしています。

今日は、最初の御紹介もあったように、「1人の100歩より100人の1歩」というタイトルで、実際に世田谷区を拠点にどんな活動ができるのか、どんな活動をしていらっしゃるのかということを実例紹介していただいて、皆さん自身、同世代でより盛り上げていくというムーブメントをつくっていったらいいなと思いますし、それを聞いてくださっている大人世代、あるいは行政の皆さんにも刺激になって、世代を超えて一緒につくり上げていく、未来をつくっていくような第一歩にできたらと思っています。

今日6団体の方にお集まりいただいています。前半では、6団体の皆さんから実際にどんな活動をどんな思いでしているのかということを実例紹介いただければと思っています。後半はフリートークの時間で、どんな未来をつくっていかうかというようなことを皆さんとざっくばらんにお話しできればと思っています。前半の事例発表、後半のフリートーク

という、この2部構成で進めていきますので、よろしくお願いします。

では、早速ですが、事例発表の1番から進めていきたいと思います。トップバッターは、SDGs子ども勉強会プロジェクトの皆さんです。SDGs子ども勉強会プロジェクトの皆さん、事例発表の準備はいかがでしょう。——では、SDGs子ども勉強会プロジェクトの皆さん、御発表、よろしくお願いいたします。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト SDGs子ども勉強会プロジェクトの代表をしています櫻井晃太郎です。いつもは東京で活動しているんですけども、今日、東京にいるメンバーが動けないので、大分県からオンラインで失礼いたします。

私たちの活動について簡単に紹介させていただくと、活動の目的は、すごく大きいんですけども、SDGsの目標の達成のために動いています。みんなと話したのですよ、SDGsの目標達成のために何ができるかなんて話したときに、認知度の向上というのと、無意識の選択が持続可能なものにできればいいよねという意識改革と、先ほども言ってもらいましたが、自分の問題として行動につなげるということです。「1人の100歩より100人の1歩のほうがいいよね」ということで僕たちは活動をさせていただいています。

小学生から大学生までいるようなすごく幅広いメンバーがそろっているプロジェクトになっています。僕は大学生ですけども、小学生は今小2が一番下で、僕が大学2年で、3年生の先輩が1人いるんですけども、そのぐらい幅広いメンバーでやっています。

何をやっているかという、学びと広報と陳情と企業連携が主な活動になっています。

写真は軽くしか載せていないのですが、僕が大分県にいることというのもありますし、小学生から大学生まで幅広い年代がいるので、期末テストとかいろんな活動が重なったりするので大人数でやるようなプロジェクトはそんなにやっていないのですが、プロジェクトとしては基本何でもやっています。今年は大阪大学でSDGsの話をしてみたり、生協さんの中でSDGs、ミートフリーの話をしてみたりとか、あとはTBSさんとのコラボレーションが僕たちの中でも一番大きいですかね。SDGs子ども勉強会プロジェクトとTBSでコラボして、ミートフリーのキッチンカーをやったりしています。そのほかに週に1回、木曜日にラジオをやったりとか、あとは個人個人でいろんな勉強をしてSDGsの関心を広めていったり、「自分たちのこういうのをやってみたいな」というものを主メンバーからいろいろ募集して、そういうプロフェッショナルに会ってお話を聞くみたいなのもやっていたりします。なので、いろんなことをやっているような団体です。

先ほど言ってもらいましたが、SDGsってやっぱり行動が大切だよねというこ

とで動いています。1人の100歩より100人の1歩のほうが、200歩にも300歩にもなっていくということでやっています。

自分たちがやっている活動の中で、さっき学びというのがあったのですが、左上に書いてある学びというのが何かというと、さっき言ったプロフェッショナルにお話を聞くのもそうですし、僕自体が環境とか開発とかを学ぶような大学に通っているの、そういうことで学びをしていったりして、メンバーに「こういう学びがあったよ」みたいなことをお話しするという活動になっています。

小学生からいて、いろんな活動をしているので、何でもできるようなグループになっています。こういう活動をやってみたいみたいなのがもしあったら、コメント欄とかで教えていただければうれしいなと思います。

こんな感じで自分たちの活動の報告は終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

○飯田 櫻井さん、ありがとうございました。実際にSDGsをテーマに、小学生から大学生までいろんな世代が集まっているということとか、いろんな企業さんとか、大人とも連携をしているということで、すごく魅力的な活動だなと思いました。

では、続いて、2団体目の発表に移らせていただければと思います。慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクトの皆さん、御発表の準備はいかがでしょう。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト はい。

○飯田 では、よろしく願いいたします。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト こんにちは。慶應義塾湘南藤沢高等部の環境プロジェクトです。私たちの学校は、神奈川県藤沢市にあって、1から6年生の一貫教育となっています。生徒は多様なバックグラウンドを持っていて、男女共学だったり、全校生徒の約25%が帰国子女だったりしています。また、受験が1から6年生の間にないで、受験に縛られない自由な校風とカリキュラムのある学校です。

私たちが所属している環境プロジェクトというのは、生徒会や委員会、部活動などと別に環境プロジェクトという団体として存在していて、本校唯一の有志団体となっています。メンバーの多くは、委員会や生徒会、そして部活動などと両立して、この環境プロジェクトで活動を行っています。

この環境プロジェクトとは、2002年から活動していて、約20年近く活動していることになります。メンバーは約120人という大人数で活動しています。環境プロジェクトの中に

は、大きく6つの班があって、企業連携班、高校生環境連盟、教育デザイン班、たべもの班、コミュニティ班、広報班という6つがあるのですが、今日は2つ、企業連携班と教育デザイン班について説明していこうと思います。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト まず、教育デザイン班です。2023年11月に、我々環境プロジェクトの出身メンバーの母校である青葉台小学校に出前授業に赴きました。また来年の2月には、系列校である小学校2校にも出前授業に行くことが決まっています。これらは毎年必ず行っているもので、旬の食材を学べる「かるた」だったり、水の中の実験だったりを授業で行っています。

次に、企業連携班です。主にスターバックス社との連携を行っています。まず、環プロ新聞です。私たちの学校の近くにあるスターバックス社に環境プロジェクトが自作した新聞を置いてもらっています。

また、啓発ポスターを作成しています。ごみの分別、プラスチックごみの削減、タンブラーの利用推奨など、スターバックス社と環境に関わるポスターを作成しています。

プロギングというのは、ジョギングをしながらごみを拾う、環境プロジェクトならではの活動です。スターバックス社の方とも連携しながら、私たちの学校がある藤沢市のごみをきれいにしました。

次に、文化祭での活動です。Logy & Nomy（ロジノミー）という慶應義塾の大学生が作ったカードゲームを用いて、環境と世界を学べるようなゲームを文化祭で小学生と共に行いました。

2008年や2016年にいろいろな賞を受賞しているのも特徴です。

御清聴ありがとうございました。（拍手）

○飯田 環境プロジェクトの皆さん、ありがとうございました。生徒会とか部活ではない別の枠組みで自主的な活動をずっと継続して長い期間やられているのはすごいなど、皆さんのモチベーションに改めて感動すると共に、きっとその中でもいろんな苦労があるのだろうなと思いました。後ほどぜひいろいろ伺えればと思います。

では、ここで、SDGs子ども勉強会プロジェクトさんと環境プロジェクトさんの発表がありましたので、一旦ちょっと私のほうから幾つか御質問できればと思います。

最初に、SDGs子ども勉強会プロジェクトの櫻井さんにお伺いできればと思います。そもそものところをまず1つ伺いたいですけれども、SDGs子ども勉強会プロジェクトさんはSDGsというテーマを掲げていろんな活動をされていると思うんですけれども、

このテーマを選んだ出会いとか、あるいはこのテーマをキーに活動していこうと思ったきっかけみたいなものはあったのですか。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト 自分の始めたきっかけですが、僕が2歳のときから体操をやっていました。その体操で世界大会に行かせてもらったときに見ていた世界は、すごくきらきらした世界でした。みんながすごく楽しそうに大会とかを開いているし、パーティーとかもあってめちゃくちゃ面白かったのですけれども、小学校5年生ぐらいのときに、「なんとかしなきゃ！プロジェクト」というプロジェクトが毎日新聞社さんから出ていまして、それに応募して、子ども特派員としてやらせてもらったときに、自分と同年代とか、ちょっと下の子から、自分の国が貧困だということを、アジアの子だったのですが、そういう話を聞いて、自分が見た世界は1つだったんだなというのに気づいて、それで貧困に興味を持ったというのが最初のきっかけです。

中学校1年生ぐらいまでずっと体操とかをやっていて、中学校1年生のときに、国連本部に行かせてもらう機会があって、国連本部に行ったときにSDGsというものを知って、SDGsの目標1番目が貧困だったから、SDGsをやろうということで今に至ります。

○飯田 ありがとうございます。そうすると、特派員の活動とか、国連に行った経験が、2歳の頃に見たきらきらした社会とちょっとギャップを感じて、よりよい社会のためにSDGsというキーワードで活動していこうと思って、実際具体的に動かれているという感じですかね。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト そうですね。

○飯田 あともう一つ、活動の紹介の中で、多分時間が限られていたので、さらっとだったと思うんですけども、本当に大阪大学とか、コープさんとか、TBSさんとか、いろんな大人の方たちと連携している、このバリエーションがすごいなと思ったのですが、この連携先ってどうやって見つけているかということと、もしも何か一押しのものであれば、ちょっと簡単に御紹介いただけますか。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト どうやって見つけているかというと、世田谷区さんとかとは、僕たちがメールして、読んでいただいてつながりを得ており、自分から動いているというのが基本的なつながり方です。つながっていくうちに、こういう活動をやっていますというのをいろんな方に知ってもらって、推薦とか、こういう活動をやっている子がいることを知ってもらって、大阪大学さんとかつながったり、コープさんでお話しさせ

ていただいたりしてつながっています。

もう一つの質問は何だったのでしょうか。

○飯田 いろんなところとつながっていると思うのですがけれども、今一番頑張っているとか、一番一押しのものであれば、何か1つ具体的に御紹介いただけますか。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト 僕たちの中で一番大きいのは、やっぱりTBSさんとのコラボレーションが一番大きいかなと思っています。地球を笑顔にする広場というのが半年に1回ぐらい開催されているのですがけれども、それに毎回出させていただいています。それが一番大きいですし、一番やっていて面白いです。

○飯田 ありがとうございます。今日聞いてくださっている皆さんはそういう情報って、子ども勉強会プロジェクトの皆さんの活動は、詳しくはSNSとか、どの辺を見れば、分かりますか。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト 基本的に自分たちが動いているのがインスタグラムなので、「SDGs子ども勉強会プロジェクト」、「インスタグラム」とかで多分調べていただければ、出ると思います。

○飯田 ちょっと僕も調べてみようと思いますし、もし気になる聞いている方がいらっしゃいましたら、ぜひフォローいただければと思います。ありがとうございました。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト ありがとうございます。

○飯田 では、続いて、SFCの環境プロジェクトさんにもお伺いしたいのですがけれども、先ほど冒頭でもお話ししたように、生徒会とか、委員会とか、部活とは別の枠組みの自主的な活動で、今120名もプロジェクトの皆さんがいるというのはすごいなと思ったのですがけれども、環境活動する上では、どうやって始めるかというのと、どうやって続けるのかみたいな2つ難しさがあると思うのですがけれども、120名の皆さんは結構、人それぞれかもしれないのですが、みんなどんなモチベーションで環境プロジェクトに入ろうと思って、何で続けられるのか、活動されていて気づくこととかありますか。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト 生徒会、委員会、部活動と別で、有志団体として環境プロジェクトがあるというのが、我々にとっても1つステータスというか、こだわりになっていて、そこにとらわれないからこそ自主性が問われると思うんです。この団体は、私たちの学校が中高一貫校ですが、高校生しか入れないので、中学生の頃から環境プロジェクトってどんなことをやっているのだろうとか、高校生になったらやってみようという憧れがあるので、そこで少しモチベーションが上がるのかなと思います。

続けるという点についてですが、120人もいると、全員が常にモチベーションを保って何か1つのことに取り組むということはなかなか難しいと思います。なので、大人数いるからこそやれることも多いし、その人が興味を持ったことをそのときにやるという感じで、完全に主体性、自主性を問われた活動の形になっていると思います。

○飯田 ありがとうございます。今憧れという言葉が、きっと先輩とか、ほかの人のやっている活動を見て刺激を受けて続いているのかなというのを何となく感じました。

最後に1つだけ、さっきの子ども勉強会プロジェクトさんと同じ質問をしたいのですが、SFCの環境プロジェクトさんも、スタバだったりとか、出前授業という形でいろんな、下の世代の小学校とかとつながったりとか、あるいは文化祭では大学の方がやっているカードゲームを実際にやっているみたいな、そうやっているところと連携したりとか、いろんな世代とつながったりしていると思うのですけれども、その辺をどうやって見つけているのか、その辺の秘訣というか、裏話を教えてもらえますか。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト 環境プロジェクトが2002年から発足していて、もう20年の歴史がある割と長い活動期間を持っていて、その20年の中で環境プロジェクトから卒業していった人とか、これまで関わってきた人というのがたくさんいるのです。また、顧問の先生もずっと替わらないため、そこからの連携や卒業生からの連携など、つながってきた人から広げることが活動を広げる秘訣だと思っています。

○飯田 ありがとうございます。本当に20年の財産というか、OB、OGの方がつないでくれたり、その人がつながって、そこからまた紹介してもらったみたいな輪が広がっているという感じですかね。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト はい。

○飯田 本当に積み重ねてきている歴史を感じました。これからも頑張ってもらいたいと思います。ありがとうございます。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト ありがとうございます。

○飯田 そうしましたら、SDGs子ども勉強会プロジェクトさんとSFC環境プロジェクトさんの発表は以上にしたいと思います。

では、続きまして、3団体目の事例発表に移りたいと思います。東京都市大学ISO学生委員会の皆さん、御準備はいかがでしょう。

○東京都市大学ISO学生委員会 はい。

○飯田 では、よろしく願いいたします。

○東京都市大学 I S O 学生委員会 東京都市大学 I S O 学生委員会です。よろしくお願ひ
します。

地球温暖化の現状と身近に起きた被害について説明するとともに、I S O 学生委員会が
何をするのかについて発表していきたいと思ひます。

まず、地球温暖化の現状と影響について最初に説明いたします。産業革命以降、石炭や
石油といった化石燃料が大量に使用され、二酸化炭素などの温室効果ガスが大量に排出さ
れるようになりました。その結果、地球が過度に暖められ、近年になればなるほど温暖化
が進んでいます。

温暖化による気温上昇に伴う大型台風や干ばつなどの異常気象によって、豪雨被害や水
不足による食料の高騰や食料不足等、生活全般に影響が出ています。身近な例として、自
分たちの大学である東京都市大学世田谷キャンパスが浸水被害に遭いました。世田谷キャン
パスの建物の半数に当たる 8 棟が浸水するという大きな被害をもたらしました。

次に、私たちが所属している東京都市大学 I S O 学生委員会について説明していきま
す。東京都市大学横浜キャンパスが取得した環境マネジメント認証である I S O 14001 の
認証の維持管理と環境問題の実践的な対策を目的に、大学のキャンパスや学外で活動して
いる団体です。

主な活動内容として、環境講座、省資源・エネルギー化、企業協力、情報発信などに取
り組み、環境問題に対してマルチに活動しています。

○東京都市大学 I S O 学生委員会 I S O 学生委員会には、省資源部会、省エネルギー部
会、環境教育部会の 3 つの部会があります。それぞれの部会の活動内容をより詳しく今か
ら説明していきたいと思ひます。

省資源部会では、資源に焦点を当て、回収、啓発を行っています。特にキャンパス内を
中心に、資源の面から環境問題を見直し、環境に優しいよりよいキャンパスを目指し活動
しています。具体的な活動として、資源回収ボックスの中の分別状態を調査し統計を出す
混在率測定、ボトルキャップを分別回収しリサイクルに回すキャップ回収、分別を促すポ
スターや環境に関するポスター作成があります。資源を分別して回収することで、ごみ、
C O₂ 排出量を減らし、気候変動の対策へとつなげています。

次に、省エネルギー部会は、横浜キャンパス構内の省エネ活動、啓発を主に行っていま
す。各施設と連携を持って活動し、実現可能な省エネルギー手法を各施設に提案すること
で、省エネルギーの実現を目指すことを目的として活動しています。具体的な活動とし

て、グリーンカーテンや電力・照度測定、エネ報の発行、冬企画に取り組んでいます。省エネ活動を活発に行うことで、気候変動の原因となっている温室効果ガスの排出を抑制することができます。

次に、環境教育部会の主な活動内容を説明していきたいと思います。主に新入生ガイダンスやブログ企画、中川西ワイワイ祭りへの参加などです。環境についてより多くの人に正しい知識を持ってもらうことを目標に、地域の方や大学内で協力して活動を行っています。

実際に環境の変化や異常を感じる人々も多いと思いますが、気候変動問題は今まさに非常事態を迎えています。国連加盟193か国が2030年に達成するための目標SDGsでは、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を掲げています。それに向けて一人一人も環境問題を自分事として考え、行動を変化させる必要があります。

最後に、個人としてできることとして、SNSが普及している時代だからこそ、情報を発信したり、受け取ることは簡単にできます。日常生活の一部に環境問題について触れる機会をつくることは、子どもから大人まで誰もができることではないでしょうか。一人一人が行う小さな取組でも、たくさんの方が取り組むことにより大きな力となります。本日の発表も参考にしながら、自分にできることを考えて行動してみてください。

以上で東京都市大学ISO学生委員会の発表を終わります。御清聴ありがとうございました。(拍手)

○飯田 東京都市大学ISO学生委員会の皆さん、ありがとうございました。ISOという枠組みの中で、96名もの皆さんが3つの部会に分かれていろいろな活動されていることが分かりました。本当にすてきな活動だなと思いました。

では、続きまして、4番目の事例発表に移らせていただきます。4番目は、上智大学環境保護サークルのGreen Sophiaの皆さんになります。Green Sophiaの皆さん、よろしくお願いいたします。

○Green Sophia よろしくお願ひします。私たちは、上智大学環境活動サークルのGreen Sophiaです。Green Sophiaのメンバーは、上智大学に通う学生で構成されており、総勢80人前後で活動しています。個々の興味に合わせて様々なプロジェクトを行っているため、ファッション、フード、プラスチックなど活動内容は多岐にわたります。

活動理念は、“Learn with us, act with Green Sophia, inspire others.” 共に学び、共に行動することで、誰かを刺激するという理念の下、活動しています。

具体的に見ていきましょう。

まず、共に学ぶとはどういうことでしょうか。今年行った活動を例に説明していきます。左の写真は、プラントベースミルク会を行った時のものです。プラントベースミルク会では、アーモンドミルク、ココナッツミルクのミックス・アンド・アーモンドミルク、ライスミルク、オートミルク、無調整豆乳の5種類を飲み比べました。それぞれのミルクの栄養素やメリット、デメリットを学ぶだけでなく、牛乳の問題点を健康面、倫理面、環境面の観点から考えました。倫理面について考えた際に、牛がホルモン投与によって体を壊していたり、殺されたりしている事実を知り、衝撃を受けました。土地や水の大量使用はプラントベースミルクにも共通して言えるデメリットなので、牛乳とプラントベースミルクのどちらがいいか、一概に言えることではないなと思いました。

ほかにもプラントベースミルクにちなんでヴィーガン関連の話をしまして、これまではヴィーガン、ベジタリアンという言葉しか知らなかったんですが、ペスカタリアンという肉を食べずに魚や乳製品を食べるとい、ヴィーガン系の中では一番ハードルの低いものとか、あとフレキシタリアンという植物性食品をベースに食べるんですけども、時には肉なども食べるという柔軟性のある食生活を送る人のことなど、未知のヴィーガンについても知ることができました。

右の写真のサステナブルコスメ研究会では、ECOTOOLSさんという会社があって、そこから提供していただいたメイクブラシを使いながら、自分たちの化粧品でお化粧をしました。このメイクブラシは動物由来の原料不使用なので、ヴィーガンコスメとも呼びます。コスメに関する環境問題や非倫理的な問題について話し合い、コスメ開発の裏に隠された森林伐採や児童労働、動物実験などの問題について学びを深めました。動物実験の残酷さを表現した映像を見たことによって、動物実験をしていないということの認証を受けた化粧品を買おうという心持ちは芽生えました。

次、共に行動するということについて。他団体とのごみ拾いやほかのサークルとのヴィーガンクッキングなどを通して、共に行動するという理念を実現しています。ごみ拾いでは、マイクロプラスチックから手のひらサイズのプラスチックなど、様々な大きさのごみを拾いました。ただごみ拾いをするだけでなく、分別の難しさも体感しました。例えば目薬はプラスチックごみとして捨てるために中の液体を流さなければいけませんが、液体自体そのまま流してしまうと水質を汚染してしまうため、注意しなければなりません。ごみ拾いを通して、ごみが行き着く先のことにも意識がいくようになりました。

右側の写真は料理サークルとのコラボ企画なんですけれども、上が大豆ミートを使ったカレーライスとキャロットラペを作りました。私自身初めてのヴィーガンクッキングだったので、ヴィーガンの魅力を知ることができ、双方にとって、楽しく有益な交流だったと思います。

次、誰かを刺激するという理念について。サークルメンバーによるラジオ配信やSNSへの投稿を通して、サークル外の誰かを刺激できたらいいなと思いながら情報発信を行っています。今年は大学の学園祭に初めて出展し、プラントベースミルクを使用したカフェオレとチャイティーラテ、食べ物はレーズンの入ったヴィーガン・アンド・グルテンフリークッキーを販売しました。どちらも人気で完売することができました。しかし、購入者はお母様やお父様世代が多かったため、来年は大学生世代にもたくさん興味を持ってもらえる工夫をしたいと考えています。

ここからは、Green Sophiaのこれまでの生い立ちと今年の活動についてお話ししていきます。Green Sophiaは、2019年の秋に、当時大学1年生だった金城初穂さんによって創設されました。きっかけは、日本語中心で環境保護活動ができる団体がなかったからでして、創設以降、ビーチクリーンや政策提言イベントなどへの参加を通して、私たちが環境問題への理解を深めると同時に、他者への発信も行っていました。

今年の夏は、先ほど紹介したサステナブルコスメ研究会と日本版気候若者会議2023に参加いたしました。日本版若者会議では、高校生から30歳前後の若者間で議論をし、多くの専門家の意見を伺いながら政府への政策提言を行いました。全部で7回に及ぶ議論を経て、11月に提言文書を提出いたしました。

秋にはフランスに留学中のメンバーによるインスタライブが発信されました。マイバッグ持参が当たり前だったり、クーラーをなかなか使わない生活だったり、100均のような爆安大量生産のお店がないなど、日本の便利過ぎる生活について改めて考えさせられる貴重なライブでした。

昆虫試食会では、コオロギのおつまみ、タガメサイダー、蚕が入ったクッキー、大豆とコオロギのクッキーの4種類を試食しました。クッキー1つは大豆や紅茶のような味で違和感なく食べることができました。タガメサイダーは、リンゴと梨を混ぜたような味でおいしかったです。コオロギはインパクトが強いんですけれども、味自体はうまい棒みたいでおいしかったです。

私たちは、環境インフルエンサーとして楽しい環境を発信していきたいというモットー

の下、日々活動しています。しかし、少数の人が無理をしても環境保護は実現できません。そのため、この環境フォーラムのテーマにもあるように、身近な人たちをターゲットとして1人の100歩より100人の1歩を実現できたらいいなと思っています。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

○飯田 上智大学Green Sophiaの皆さん、ありがとうございました。共に学び、共に行動することで誰かを刺激するという事で、自分たちが変わると共に、それを外部に広げていこうというモチベーションをすごく感じました。スライドもすごく洗練されていて、インフルエンサーというか、情報発信と伝え方に力を入れているのかなということを感じました。ありがとうございます。

そうしたら、東京都市大学ISO学生委員会さんとGreen Sophiaさんに私から少し質問させていただければと思います。

最初に、ISO学生委員会の皆さんにお聞きしたいんですが、96名の皆さんで、省資源とか、省エネルギーとか、環境教育みたいな幾つかの部会に分かれていろんな活動をされているということですが、実際に御自身で活動されてみて、何かやっていてよかったなと思うこととか、何かそういう印象に残っているエピソードとかがあれば教えていただけますか。

○東京都市大学ISO学生委員会 自分は教育部会に所属しており、今回の活動もそうですが、地域の方と協力して活動するという事に本当にやりがいを感じています。

○飯田 実際に地域の方と触れ合う中で、覚えている言葉とか、自分が変わったとか、その方に何か影響ができたかなみたいなエピソードってありますか。

○東京都市大学ISO学生委員会 7月に行われた中川西ワイワイ祭りですが、環境問題を取り組む上でどうしたらいいのかとか、そういう話を実際やっている人に聞く機会というのはなかなかないので、大学での勉強では得られないようなことが得られるので、そういうところがすごくいいなと。

○飯田 ありがとうございます。やっぱり地域に出ていくことで、ふだん学内だけではない、ほかの世代の方とかとやる中で、知識的にもそうだし、刺激を受けたという感じですかね。

○東京都市大学ISO学生委員会 はい。

○飯田 ありがとうございます。

Green Sophiaさんにもぜひお聞きしたいんですけども、環境インフルエンサーとして

自分たちが変わるとともに、いろんな人に影響を与えていきたいとすごく感じたのですがけれども、特にいろんな人を巻き込む中で、印象に残っているエピソードとか、やっけて自分が変わったなとか、企画された講演会やいろんなプロジェクトの中で、他者に影響を与えられたと感じる経験や、エピソードって何かありますか。

○Green Sophia やっぱり自分が変わったなというのは大きくて、それまではやっぱりペットボトルとかを毎日のように持ち歩いていたんですけども、メンバーからそういうシングルユースじゃなくて、繰り返し使えるものにこだわるという点で、1つのものを長く使うとか、あと水筒を持ち込んで消費を減らそうという意識が芽生えました。

○飯田 無理に相手を変えようというよりかは、自分が変わっていくのを見せることで、ほかの人にもいろいろ影響ができたらいいなという感じなんですかね。

○Green Sophia そうですね。やっぱり楽しくというのをモットーにしているので、強制はしたくないなと思っています。

○飯田 では、Green Sophiaの皆さんが楽しく環境活動をある意味おしゃれにやっているのを見て、何となく、無理に変えたいというよりかは、いいなと思ってもらえる人の輪が広がっていったらいいなというような感じですかね。

○Green Sophia はい。

○飯田 ありがとうございます。Green Sophiaさんも多分インスタとかもすごくやられていて、いろんな発信をされていると思うので、ぜひ興味がある方がいらっしやいましたら、フォローしてみてくださいと思います。

では、2団体の皆さん、ありがとうございました。(拍手)

では、続いて、5団体目の事例発表に移りたいと思います。世田谷区環境サポーターの皆さん、準備はよろしいでしょうか。――では、よろしくお願ひいたします。

○環境サポーター 皆さん、こんにちは。環境サポーターの中島と申します。これから環境サポーターが日々どのような活動をしているのか、お話ししたいと思います。

まず、環境サポーターとは、世田谷区が公募した大学生のボランティア団体です。27名の登録学生は、大学も学部もばらばらですが、環境や世田谷区というのをキーワードにして集まりました。活動内容としては、大きく分けて2つあります。1つ目が、環境出前授業での講師、そして、2つ目が環境啓発イベントの運営や参加です。

環境サポーターができた経緯は、地球温暖化の進行が関わっています。最近、暑過ぎてしまっていたり、寒過ぎたりすると思います。そして、大きな台風がやってきて、2019年

10月、世田谷の多摩川で川が氾濫したことも皆さん覚えていると思います。そんな地球温暖化の進行に対して、令和2年10月に世田谷区は世田谷区気候非常事態宣言を行い、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すことを発表しました。これを達成するために、世田谷区は大人から子どもまで、区民一人一人が気候危機問題を自分事として捉えて、環境への影響を考えて行動してもらうことが必要だと考えているため、私たちが主体になって、行政と協力して、区民の皆さんと一緒にこの課題に取り組んでいくために、私たち大学生が集まりました。

私たちの活動の1つ目は、環境出前授業です。これは、申込みがあった区内の小学校の4年生から6年生を対象に、教室に伺って授業を行っています。

具体的な内容としては、まず、地球温暖化の基礎知識をレクチャーします。そして、各学校にエネルギー、食品ロス、森林伐採のテーマから事前に選択していただいた内容で授業をした後に、子どもたちが身近に感じられることから、どのようなアクションができるのかというワークショップを行います。例えばエネルギーの授業では、夜の航空写真をテレビに映し出して、クイズを出しながら、夜でも地球が浮かび上がるくらい多くの電気を使っているということを視覚的に感じてもらったり、再生可能エネルギーのお話などをしたりします。また、食品ロスでは、世田谷区内で発生した食品ロスの量を写真で示したり、食品ロスがどうして地球温暖化につながっているのかなどをお話ししたりしています。

昨年の実績としてはこちらです。小学校10校、計35クラス約1249名の子どもたちに環境についてお話ししてきました。

これが実際の授業の様子です。各クラスに3名前後で授業を行って、テレビを使って、「これ分かる人？これはどう思う？」と問いかけると、みんな積極的に手を挙げてくれて、真剣に聞いてくれているのが本当にうれしかったという記憶があります。

そして活動の2つ目が、環境啓発イベントの運営や参加です。今年は8月に行われたせたがやふるさと区民まつりに出展をして、子どもたちに間伐についてお話をした後に、実際に川場村の間伐材を使ってコースターを作りました。そして、若者環境デーの企画、運営などを行っています。

実はこのフォーラムの裏では、この環境デーが行われています。若者環境デーは、若者たちが主体になって、世田谷区内の小学生を対象に、高校生や大学生などの環境などに取り組んでいる人を集めて情報発信をするという環境学習イベントになっています。これは

昨年から始まった2回目のイベントで、この写真は昨年の様子を映しています。今年は私が副委員長として参加をされていて、これまでの運営委員会の会議では、子どもたちにどんなことを伝えたいのか、どうしたら伝わるのか、何度も会議を重ねてつくってきました。今は隣の体育館では子どもたちがすごく楽しそうに環境について学んでいて、今年からは去年よりも会場が大きくなり、ワークショップなど頭を働かせて取り組むものもあれば、自動車発電など、体を使って体感してもらえそうなものまでありました。午前中、私もそちらに参加していて、いろんな子どもたちとお話をしたり、どうしてここに来れたのか、いろんなお話をして、環境について自分事としてもらえるよう、このイベントに取り組んでいます。

ここに参加しているほかの団体の皆さんはもちろんですが、この配信を見てくださっている方も、何かに参加して一歩踏み出すきっかけになってくださったらうれしいです。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

○飯田 環境サポーターの皆さん、ありがとうございました。実際に大学の枠を超えていろんな取組、特に子どもたち向けの出前授業やイベントなどいろいろ活動されていることが分かりました。後ほどぜひ詳しく伺えればと思います。

では、続きまして、お待たせいたしました。6団体目の発表に移りたいと思います。せたがや子ども気候会議の皆さん、御準備はいかがでしょう。

○せたがや子ども気候会議 少々お待ちください。

○飯田 はい。せたがや子ども気候会議は、小学6年生から中学生まで、本当に学校とかの枠を超えて集まって今活動していると伺っています。今日は4名の方に代表してお越しいただいております。

では、せたがや子ども気候会議の皆さん、発表をよろしく願いいたします。

○せたがや子ども気候会議 こんにちは。本日は区が主催しておりますせたがや子ども気候会議について紹介させていただきます。

この会議では、「君のアクションが世界を救う」をテーマに1年を通じて、総勢約70名の区内在住の小・中学生で進めてきました。実際の会議では、グループに分かれて外部団体のファシリテーターの方と共に、気候変動に対する認識を共有するとともに、私たち一人一人に何ができるのかを話し合いました。最後には、明日から実践するマイアクションを宣言しました。この会議では、世田谷区が主催していることもあり、区長に直接お話を伺う機会もあり、貴重な時間でした。ここまではせたがや子ども気候会議の概要について

紹介してまいりました。

次に、リーダーとして、このせたがや子ども気候会議でグループの意見をまとめたり、発表したりしてきた私の体験談について少しお話しさせていただきます。まず、参加動機についてですが、私は環境について自分なりに考えることはあったのですが、それを共有したり、ほかの人、ましてや区の方とお話をするというのは経験がなく、興味が湧いたので、この活動に参加しました。実際に参加してみると、区長の保坂さんをはじめとする区の職員の方や、同年代の多様な知識や経験、考えを持つ方々と話し合いをすることはとても興味深く学びが多かったです。また、通年の会議で、リーダーのみで行う事前の会議も含めると、一、二か月に1回は活動していたので、自然と環境について考える時間を頻繁に取ることができ、気候変動や我々が知るべきことに対する意識が広がりました。先ほども紹介したように、この会議のゴールはマイアクションを宣言するということになりました。私はこの会議で知らないことの多さを痛感しましたので、授業やニュースなどで出会った事実について深掘りして調べたり、自分なりにスライドなどにまとめたりして知識を増やしたいと思っています。この会議を通じての新たな環境問題や、その対策として現在行われていることなどとの出会いはとても貴重なものとなりました。

○せたがや子ども気候会議 まず、せたがや子ども気候会議に参加した理由についてお話しします。私がせたがや子ども気候会議に参加した理由は、前から地球の温暖化、ごみについてなど、今の課題、現状を変えてみたいと思ったからです。しかし、大きな課題に具体的にどのように取り組めばいいか分かりませんでした。そんななかで、せたがや子ども気候会議というものを知りました。せたがや子ども気候会議では、実際に皆さんで話し合うことができます。また、1人ではできないと思っていたことでも、みんなと共有し合うことができ、新しいアイデアや知識を得ることができます。私は、世界の現状を変える1つのアクションだと思い参加しました。

次に、参加してみた感想について話します。リーダーの人の話を聞いたとき、皆さんは本当に熱心に話していて、とても地球のことについて考えているなと思いました。また、リーダー以外の方も積極的に意見を言っていてすばらしいと思いました。参加することで私も知らなかった海外での取組や、ごみ袋についてなど、新しいことを学ぶことができよかったです。あまり身近に地球の現状について話すことができる機会が少なかったため、このような機会ですべて地球のことについて熱心に考えている人と話すことができよかったです。

御清聴ありがとうございました。(拍手)

○飯田 せたがや子ども気候会議の皆さん、ありがとうございました。本当に区長と対話したり、大人と対話したり、気候変動とか環境問題というキーワードでいろんな世代の人と対話しながら、いろいろ感じたこととか思ったことがあったということがすごくよく伝わってきました。ありがとうございます。

そうしたら、環境サポーターの皆さんとせたがや子ども気候会議の皆さんにちょっと私から御質問できればと思います。

最初に、環境サポーターの皆さんにお伺いしたいんですけども、活動の中で、もともと区が公募されていて、いろんな大学から集まっていると伺ったんですけども、応募しようと思ったきっかけは何ですか。

○環境サポーター 参加しようと思ったきっかけは、私個人のお話になってしまうのですが、2つあって、1つ目が、以前から私は高校のときから環境について活動していて、自分だけのフィールドではなくて、もっと世田谷という広いフィールドで活動してみたいと思ったのが1つと、先ほども申し上げたとおり、環境サポーターは出前授業を行っていて、小学生にとって出前授業って、ふだんの授業とは違うすごく特別感があると思うので、その中で環境について取り扱ったら、少しでも身近なものに感じてもらえると思って応募しました。

○飯田 ありがとうございます。まさにもう一つだけ聞きたいことがあって、それは出前授業のなんですけども、実際に小学校に出向いて大学生が出前授業をしたり、今日もまさにこの裏でブースを構えて、小学生とか小さい子たち向けに環境の企画をやられていると思うんですけども、実際に子どもたちと触れ合ってみて、感じたこととか、子どもたちの反応とかがどうでしたか。

○環境サポーター 子どもたちは本当に人それぞれというのが正直な感想ですが、すごく難しいことを知っている子がいたり、私たちよりももっと知識を持っていたり、一方で、初めて環境についてしっかり、私たちが第一情報源になることもあるので、環境について発信するときはすごく分かりやすい言葉を使ったりしながら、これまで環境について触れてこなかった子たちが自分事として環境を捉えてもらえるようにしていると思います。

○飯田 ありがとうございます。

続いて、せたがや子ども気候会議の皆さんにもお聞きしたいのですが、実際にいろんな人との環境とか気候変動をキーワードにした対話を重ねられているということでしたけれ

ども、ふだん学校の中で話していることと、あるいは学校の外で、大人世代とか、あるいは区役所の人とか、区長とかと話す中で、ふだんとの違いつて感じたりしましたか。驚いたこととか、びっくりしたことって何かありますか。

○せたがや子ども気候会議　そもそもほかの誰かと環境について話し合うという機会は思っている以上に少なく、例えば「自分なりに課題でレポートをまとめなさい」という宿題はあっても、誰かと自分の知識だったり、考え方を共有したりするという機会は少なかったもので、実際に区長の方や区の職員の方、同年代の区に住んでいるたくさんの方々とお話をするにはすごく貴重な体験になりましたし、より環境についての意識が高まったように感じております。

○飯田　ありがとうございます。ちなみにいろんな大人と接する中で、なかなか一言で言うのは難しいと思うのですが、大人はすごいなと思いましたか、それとも、いや、もっとやってくれよという感じですか。

○せたがや子ども気候会議　区の職員の方は、やっぱり自分の地元についてどのようなことをしていらっしゃるのかというのを聞く機会もあったので、実際にそんなことが起きているというのを知らない部分を学ぶことができましたし、実際、大人の方にも、周りの同年代の人々にもすごく圧倒される部分がありました。

○飯田　ありがとうございます。やっぱり大人とか、それを仕事にしている人とかの話聞いて、すごく知識の面もそうだし、熱意とかでもすごいなという、尊敬するとか、圧倒される部分が多かったという感じですか。

○せたがや子ども気候会議　はい。

○飯田　ありがとうございます。そうしたら、もっと聞きたいこともあるのですが、一旦時間も来てしまったので、環境サポーターの皆さん、そしてせたがや子ども気候会議の皆さんへの質問はこれぐらいにしたいと思います。2団体の皆さん、ありがとうございました。（拍手）

そうしたら、ここから後半戦ということで、最後に、御発表いただいている6団体の皆さんを交えてのパネルディスカッションの時間にしたいと思います。残り20分ほど、ちょっと限られた時間ですが、ぜひお付き合いください。よろしく願いいたします。

ここからの形式としては、これまでは個々の活動を発表いただきましたが、世田谷や環境をキーワードに共通項・共通点もあるかなと思いますので、ここからは僕からちょっと共通の質問を投げかけさせていただいて、それに対して思うことをそれぞれの団体から御

発表いただくというスタイルで進められればと思います。なので、これからお題をお伝えするので、ぜひ手元にA3の紙があるので、ちょっとA3の紙にそのお題に対する思うことを書いていただいて、それを掲げながら御紹介いただくというようなスタイルで進められればと思います。

1つ聞きたいなと思っているのですが、まず1つ目のお題としては、環境問題とか、最近のこの社会全体を見ると、やっぱり新型コロナの影響は避けて通れないかなと思います。当時、多分小学生、中学生、高校生とかでも、休校になったり、コロナですごく大変だった部分もあれば、逆に言うと、今日のこのオンライン会議とか、オンラインでのフォーラムみたいに、コロナによってできるようになったこととか、可能性を感じたこととか、あと環境のほうでいくと、コロナはすごく悲しい残念なことでしたけれども、コロナで全世界が活動を停止したことで、その期間だけ環境はよくなったというような結果も出ていて、環境活動をやればできるじゃないというようなところも見えた期間だったかなと思います。

テーマでも出てきました気候変動とかも、最近、地球温暖化だけじゃなくて、「地球沸騰化だよな？」みたいな言葉も出ていたり、「コロナの間も着々と環境はまずくなっているよね？」みたいな、コロナや気候変動がすごくクローズアップされたこの1年、2年、3年ぐらいだったかなと思います。なので、それぞれ小学校、中学校、高校時代のコロナとか、気候変動とともに過ごされていて、ここ数年の変化とか、コロナと気候変動に対する、どんな思いでここ数年向き合ってきたのかな？みたいなところをぜひ伺いたいです。なのでこの後、30秒ぐらい書く時間を取りますので、ぜひこの数年、コロナとか気候変動の変化をどんなふう感じられていたのかとか、そのあたり、もしよかったら御発言いただければと思います。では、手元のフリップに書いていただいてもよろしいでしょうか。

一応1問目の質問を書きながらで恐縮ですが、さっきの発表順で伺ってみたいと思うので、一番にSDGs子ども勉強会プロジェクトさん、そしてSFCの環境プロジェクトさん、ISO学生委員会さん、Green Sophiaさん、環境サポーターさん、最後にせたがや子ども気候会議さんの順番で、書いたフリップのキーワードを掲げながら、その思いを簡潔にぜひ御紹介いただければと思っています。特にこれは正解があるわけじゃないので、ポジティブな変化でもいいですし、こんなところが難しかったですとか、こんなところが苦労しましたというようなネガティブなというか、今後に向けた課題でも大丈夫です。ぜひ率直な思いを聞かせてもらえればと思っています。

多分1団体当たり2人とか3人とか、多い団体さんは4人ぐらいいらっしゃると思うんですけども、時間の関係上、1団体1人で、1団体1キーワードでお願いできればと思いますので、よろしくお願いします。

無茶振りですみませんが、準備はどうですか。ちなみに、今トップバッターを勝手にSDGs子ども勉強会プロジェクトの櫻井さんから思っているのですが、櫻井さん、御準備はいかがですか。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト 大丈夫ですよ。

○飯田 ありがとうございます。さすがですね。では、ちょっとフロアの皆さんの準備が整ったらお願いしたいと思うので、発表の御準備をよろしくお願いします。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト はい。

○飯田 では、大体書き終わったと思いますので、先ほどの発表順で、この数年、コロナとか気候変動に対する変化がすごく激しい時代でしたけれども、どんなことを思って活動していたのかというようなことをぜひお聞きできればと思います。

そうしたら、最初に、SDGs子ども勉強会プロジェクトの櫻井さんから御発表いただけますか。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト はい。SDGs子ども勉強会プロジェクトって、実はコロナ直前にできたグループなんですよ。なので、コロナ禍が最初のスタートみたいな感じだったので、動きとしてコロナが明けたから変わったねということがあまり実感として実はなくて、でも、やっぱり書いたとおりにオフラインでみんなと会えるというのはすごく大きいなというのはあって、それこそフードとかをやっていると、家庭科の授業で取り入れたいなと思ったのですけれども、コロナがあってそういうことができなかつたときがやっぱり多くて、最近ではコロナが明けてきて、調理実習とかも戻ってきているという話を聞いているので、そういうフード系の動きがやっぱり大きく動けるといえるのは、最近ちょっとずつ、ちょっとずつ感じているところではあります。

○飯田 ありがとうございます。確かにコロナのときは、給食も黙食とか、調理を伴うような活動は難しかったですよね。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト そうなんですよね。そこが……。

○飯田 ちなみに、コロナだからこそできたことって何かありますか。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト 自分の高校ではオンライン授業が全くなくて、紙で宿題が送られてきていたんです。その分、環境とか、SDGsの話を知れたというのも

大きいですし、オンラインが普及したからこそ、アメリカにいる子とか、海外にいる子もそうですし、大分と今東京ですけれども、こうやって遠いところからでも取材とかができるというのは、その進歩というか、技術を見つけてくれたということはすごく大きいかなと個人的には思っています。

○飯田 まさに今も遠方から参加してもらっていて、もしもデジタルのこのツールがなかったら欠席になっていたかもしれないけれども、今日つながれているというのはすごく大きいなと改めて思いました。ありがとうございます。(拍手)

続いて、S F Cの環境プロジェクトさんからもお話しいただけますか。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト 私は、コロナ禍の活動を通して、「みんなで」ということをキーワードにしてみました。私たちの代は、ちょうどコロナの年に学校に入って、その間も環境プロジェクトとかはあったんですけども、その年に新しくメンバーを迎えることとか、あとはみんなをまとめて、全員をまとめて活動するということが難しかったので、どれだけ個人個人にすごくやる気があったとしても、みんなをまとめることができないと、やっぱり一人一人の力だと環境という大きなものに立ち向かうには小さいと思うので、コロナ禍が明けて、そのコロナの中でもZ o o mとかを使ってすごくみんなといっぱい頻度を高く連絡を取り合えたりとか、そういうメリットもあったんですけども、どちらかというと、人と対面で会えなかったり、コミュニケーションが取りづらかったりとか、そういうデメリットもあったので、やっぱりこのコロナ後の活動としては、みんなで一致団結してまとめていくということがすごい、私にとっては大きなメリットです。そこが変化だと思いました。(拍手)

○飯田 ありがとうございます。ちなみにコロナでオンラインでできることと、オンラインだと難しいところがあったと思うんですけども、「みんなで」というキーワードでいくと、今少しずつウィズコロナとかアフターコロナになっていく中で、みんなで対面でやるなら、対面だからこそこんなことができそうだなみたいなってどういうことがありますかね。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト 私たちは、今日、中学生とかの授業をしてきたんですけども、コロナとかだと、やっぱりZ o o m上で授業をすることになっていたので、中学生とリアルで話せない、やっぱり伝わるものと伝わらないものとか、どちらかというと伝わらないもののほうがちょっと大きいのかなと思ったりして、あとは、今日実際に旬かるたという、旬の野菜を描いたかるたを使って授業を行ったんですけど

も、そういうかるたとかってやっぱりみんなで会ってやらないとできないので、そういう授業とかも、やっぱり対面のほうがすごくいいなと感じています。

○飯田 確かに情報とかは伝わるけれども、その熱量とか空気感とか、1つのカードゲームをみんなで囲むみたいなのは、対面のほうができるかもしれないですね。ありがとうございました。(拍手)

では、続いて、東京都市大学のISO学生委員会の皆さん、いかがでしょうか。

○東京都市大学ISO学生委員会 「限られた制約」と書いたんですけども、制約がある中でどう楽しむとか学校生活を、行事とかも結構縮小されたりというのが多かった中で、その中でどう楽しむとか、部活も外で活動できないという中で、Zoomとかを使ってみんなで筋トレしたりとか、みんなで走るアプリとかがあるんですけども、それでみんなで走る記録を見たりとか、そういう中で、制約がある中でどう自分たちを上げていくかというのを考えた3年間でありました。当たり前のことが当たり前じゃないというのが本当に実感としてあって、今までの生活が本当に幸せと言ったらあれですけども、いいものだったのかなというのを本当に実感したこの3年間でありました。

○飯田 ありがとうございます。当たり前のことが当たり前じゃないというのは本当に目に見える形で、SDGsも持続可能性とか言われていますけれども、なかなかふだんど持続不可能、このままはやばいんじゃないという危機感がないですけども、コロナみたいなのがあると、本当にまずいよねと、本当に僕自身も感じました。

ちなみに今後、対面で会えるような状況になって、こんなことをやってみたいなというような夢とか思いってありますか。

○東京都市大学ISO学生委員会 県外とかに行くことがあまりできなかったのも、みんなで外に出て遊んだり、今までできたことを本当に素直にやりたいと思います。

○飯田 ありがとうございます。また、大学を超えてとか、世田谷区外にも広がっていきたいという感じですかね。

○東京都市大学ISO学生委員会 はい。

○飯田 ありがとうございます。(拍手)

そうしたら、上智大学Green Sophiaの皆さん、キーワードをぜひ御紹介いただければと思います。

○Green Sophia 私たちは、「知るから実践」ということと、あと「消費の見直し」ということを挙げました。サークルとしては知るから実践というキーワードがありまして、ま

ず、Green Sophia自体がコロナ禍で誕生したサークルのため、最初はオンラインが基盤でした。そこからコロナが明けてきて、最近是对面イベントだったり、対面で活動したり、あとは外で活動したりすることが増えてきています。

私たち個人としては、消費の見直しということなんですけれども、例えばコロナ禍で買物になかなか行けないからこそ、今まで買った物を長く使う意識だったり、あとは家にいると自分でエアコンを操作することが増えたので、そこからエアコンをつける前にちょっと厚着をしてみようかなとか、そういう消費する電力を最小限にする努力をするようになりました。

以上です。(拍手)

○飯田 本当にコロナだとおうちの時間が増えて、今まで日常生活は大学にいたりして、家は、学生の皆さんだと、起きて、寝てみたいな場所だったのが、すごく家で授業もするし、家で活動もするしみたいなので、今まで気づかなかったことが気づくようになったところでは、本当にコロナ禍の影響が大きかったんだろうなと思いました。ありがとうございます。

では、続いて、環境サポーターの皆さんもキーワードを御紹介いただけますか。

○環境サポーター 環境について話せる雰囲気できたということがまずあります。コロナ前に比べて、自分が環境について興味を持った後にアクセスする場所が増えたんじゃないかな、コロナ中に発足した団体もたくさんあると思うので、そういう面で変わったんじゃないかなと思います。

あともう一つが対面になったこと、環境サポーターは去年までオンライン中心で、今年から少しずつ対面が増えてきたので、それによって大学生が集まって、自分の思っていることを共有できたり、こうやってイベントも対面で行えていたりするので、こういうものにしました。

以上です。(拍手)

○飯田 ありがとうございます。特に1つだけ、環境について話せる雰囲気できたところすごく興味深いなと思ったんですけれども、同世代とか、同じ大学の子たちと話していて、環境とか気候変動とかについて何か変わってきたなというのはすごく感じるということですかね。どのあたりで感じますか。

○環境サポーター 環境について話すと、やっぱり意識が高いねだったり、すごいねというふうにして会話が終わってしまうことも多かったのですが、それぞれが何かしらのきっ

かけで、環境について考える時間ができたということがあると思うので、授業だったり、イベントとか、そういうところで自分事になっている人が少しずつでも増えてきたんじゃないかなと思っています。

○飯田 いわゆる大学の中でも意識高い系みたいになるんじゃないなくて、割と環境を考えるのは昔よりは少しずつ当たり前というか、スタンダードになってきているという感じですかね。——ありがとうございます。(拍手)

最後、お待たせしました。せたがや子ども気候会議の皆さんもぜひ御紹介いただけますか。

○せたがや子ども気候会議 キーワードは「機会」にしました。コロナの自粛とかの影響で、皆さんが言っているとおり、家にいることが多くなって、どうしたってふだんよりも家で電力をたくさん消費してしまっていて、そこからどうやったら電力を節約できるだろうと考えました。そうしたら、電力を消費しないためにはどうしたらいいだろうかと広がって行って、そこから地球温暖化などのアクションをいろいろと考えるようになりました。

以上です。(拍手)

○飯田 ありがとうございます。ちなみにコロナの前と後で、一緒に活動、アクションしようと思ったときに、話す人とか、そこら辺は変わりましたか。誰と一緒にやっついこうという感じで今活動していますか。

○せたがや子ども気候会議 コロナが終わると、学校の出前授業とかが増えて、SDGsについて取り組む課題とかも増えていったので、クラスの中のSDGsの気合いみたいなものが上がって行って、「今度川へ遊びに行くときにごみ拾いしようぜ」みたいなことは結構ありました。

○飯田 コロナの期間中は結構オンラインだったりとか、学校の中で勉強することが多かったけれども、コロナ後になって、少しずつ、さっき発表もあった出前授業で外部の人が来たりとか、遊びに行ける範囲も広がってきて、いろいろ活動範囲が広がってきたのかなと思いました。ありがとうございます。(拍手)

皆さんありがとうございました。同じテーマでも割と同じ、つながりができるようになったよねみたいな共通する部分もあれば、少し違った視点もあってすごく興味深いなと思って伺っていました。

最後に、時間もあと10分ちょっとになってきているので、一言ずつお話しいただいて締

められればと思っています。2つ目の質問なのですが、最初の区役所の方の御挨拶のところでも、今世田谷区では、2050年にゼロカーボン、二酸化炭素の排出を実質ゼロにしたいという目標に向かって今頑張ろうとしています。やっぱりSDGsもそうだし、ゼロカーボンも、今ある活動の延長線上に、このままいけばいいかなというよりかは、やっぱり本当に達成しようと思ったら、考え方とか行動とかを変えるということがポイントになるかなと思っています。

そんな中で、ぜひ皆さんに考えていただきたいのは、2050年ゼロカーボンを実現した世田谷はどんな世田谷になっていたらいいいのかなという理想の姿と、それに向かって自分たちは何ができそうかなみたいに、今後こんなことをやってみたいなという、ぜひアクションとかアイデアがあれば教えていただければなと思います。もしも自分たちだけじゃ難しかったら、大人にこんなふうになってほしいとか、あるいは区にこんなふうなことをやってほしいみたいな、そういうことでも大丈夫なので、ぜひ2050年、こんな世田谷区だったらいいな、それに向けてこんなふうなアクションをしていきたい、自分たちでも、大人と一緒にでもいいので、そんなことを少し考えていただけるとうれしいなと思っています。

また30秒ぐらいちょっと時間を取るのも、手元のフリップにキーワードを書き添えて、最後、恐らく各団体、30秒から1分ずつぐらいお話し添えて、このトークセッションを締められればなと思います。ちょっとシンキングタイムを取ろうと思うので、ぜひよろしくお願ひします。さっきと同様に、1人一言というよりかは、各団体に一言でお願ひできればと思っています。よろしくお願ひします。

もう最後、言い残したことの無いように、最後の一言という感じなので、具体的にこんなアクションをしたいみたいなことでもいいですし、ふわっとこんなふうになったらいいなという、そこら辺は皆さんの個性というか、オリジナリティーにお任せしますので、最後、今日のフォーラムを経て、2050年に向けて、こんな世田谷区になったらいいなとか、自分はこんなアクションをしたいなとか、あるいはこういう人と一緒に活動してみたいな、こんなふうにな大人世代にな変わってほしいなみたいな、そのあたりをぜひ自由に聞かせていただければと思っています。

よかったら、せっかく最後なので、いつも僕から指名してばかりだとあれなので、もう心の準備ができたよという団体から名のりを上げて添えて、最初に話したほうがいいのか、最後に話したほうがいいのか、ちょっといろいろ難しいところですが、そのよう

にいきたいなと思うので、あと10秒、15秒待ったら、皆さんいかがですかという感じで呼びかけたいと思うので、オンラインで入っていただいている子ども勉強会プロジェクトの櫻井さんはちょっと入りにくいかもしれませんが、遠慮なく言いたいタイミングで言っていただけるとありがたいです。

皆さん、大体準備できそうですかね。ありがとうございます。ちなみに1番に言ってもいいよという団体さん——ありがとうございます。上智大学のGreen Sophiaさんが名のりを上げていただいたので、ぜひフリップを御紹介いただいて、最後、一言よろしくお願ひします。

○Green Sophia ありがとうございます。上智大学のGreen Sophiaです。私たちは、「世田谷区がみんなを巻き込む区」になってほしいなと思っています。世田谷区では、たくさん環境問題に対する取組がなされていると思うんですけども、そういうのをもっと世田谷区以外にも発信して、もっと区民の方以外にも、ほかの区民だったり、県民の方に参加していただけるような大きなイベントとかを開催して、どんどん巻き込むような、巻き込んで世田谷区が環境発信に関してリーダー的な存在になっていったらすごくいいんじゃないかなと考えています。

あともう一つ、実際に実践的な取組として、ゼロカーボンを目指すということで、やっぱり電力の削減というのが大事だなと考えていて、電力を削減するための習慣づけとして、例えば電力削減月間とか、何とかウイークというふうに期間を設けてやってみることで、人々の生活の中で意識も高まるし、自分たちの生活に取り込みやすくなっていくのかなと考えています。

以上です。(拍手)

○飯田 「巻き込む区」へということで、力強いメッセージをありがとうございます。

そうしたら、次に2番目に——ありがとうございます。タッチの差で早かった環境プロジェクトさん、都市大学さんの順番でお願いできればと思います。

では、最初、環境プロジェクトさん、よろしくお願いします。

○慶應義塾湘南藤沢高等部環境プロジェクト 私は、いろいろな環境保護を行政が行っていく中で、住民の幸せとか満足度を損なわない町が理想的だと思います。住民の幸福度とか満足感を無視して、環境保護だけの政策を押しつけていく形だと、環境保護そのものがつらいことだとか、面倒くさいことと取られかねないので、そうすると、持続可能とは言えなくなってくるので、住民の満足度と環境保護というのを両立させて、生活の中にじわ

じわと環境保護というのを浸透させていくことが大事なのではないかと考えます。

また、カーボンニュートラルに関してですが、私たちの学校でも、このようにごみ箱の変更などを行って、ごみの削減などやごみの分別をもう少し細かくしようという動きをやっているのですが、これはもともと大学側がカーボンニュートラルを目的として動いているのに、私たちも連携させていただいている形になっていて、このように、実行しやすい立場にいる大人とやる気のある中高生とか若者が連携していくことによって、より大きな動きを起こせるのではないかと思います。

ありがとうございます。(拍手)

○飯田 両立とか、連携とか、すごく大切なキーワードをありがとうございました。

では、続いて、都市大学のISO学生委員会の皆さん、よろしくお願いします。

○東京都市大学ISO学生委員会 僕たちのキーワードとしては、「協力」というキーワードを挙げさせていただきます。具体的に2050年の町の理想として、地域に活気がある町になってほしいというものがあります。例えば今回の取組のように、大学や小学生、中学生などの世田谷の地域で協力した取組で地域の人々に環境問題に関心を持ってもらうのと同時に、コミュニケーションを取るような場所を用意したりすることであったり、環境問題の解決につなげながら地域の活性化にもつなげられる大学と地域の取組をより積極的に参加していきたいし、参加できる環境をつくっていくことが大切だと思います。そして、子どもたちに教えることもそうなんですけれども、大人の人には、子どもたちと一緒に環境問題について一緒に考えて、一緒に行動するような機会を増やしていくことも大切だと思います。社会の構造をよりフラットにして、誰もが簡単に環境問題や地域の環境にアプローチできる、そんな社会になってほしいです。

また、先ほど制約という言葉が挙げさせていただいたとおり、限られた制約、例えば資源であったり、環境問題の取組方の手段、あるいはこれからの時代、環境について厳しくなっていく国や市の法律などが整備されていくこともあると思いますが、このような限られた制約の中で、自分たちの一番よりよい新たなライフスタイルの構築をしていけたらいいなと思います。

以上で発表を終わります。(拍手)

○飯田 ありがとうございます。

続いて、言ってもいいよという——ありがとうございます。せたがや子ども気候会議の皆さん、よろしくお願いします。

○せたがや子ども気候会議 僕のキーワードとして挙げるのは、「環境問題への関心の薄い住民の協力をつくる流れ」です。まず、ここの議題であるゼロカーボン社会の実現のためには、地域住民の協力が必要不可欠だと僕は考えています。私たちの子ども気候会議では、風呂で使った水を洗濯に使ったり、エコバッグを用いることでプラスチックごみなどを削減したりできるなどの意見が上がりました。一方で、このようなアイデアが出ていますが、このアイデアを多くの人々に知ってもらい、実践してもらう必要があります。

ここで挙げている住民は、環境問題に対して、ほかの人がどうにかしてくれたり、まだ気候変動には猶予があると考えている人が多く、そのような意識を変えていくことが必要だと考えました。そのため、私たちのような環境問題に興味を持ち、危機感を持って行動している我々が、親や友達などに働きかけを行い、少しずつ広めて意識を変えていくことが必要だと思います。そして、ゼロカーボン社会が現実的になっていくんだと思っています。これにより、私たちは住民の協力を推し進めていけるものだと考えていて、このような環境に配慮した行動の推進のためになる若者環境フォーラムのようなイベントを大人の方々には広めて行ってほしいと思っています。

以上です。ありがとうございました。(拍手)

○飯田 ありがとうございました。

あと2団体ですが、いかがですか。——お願いいたします。環境サポーターの皆さん、よろしくお願いいたします。

○環境サポーター 私は、「2050年に安心して暮らせる町」になってほしいなと思っています。環境について不安がないような暮らし続けたいと思える町です。今、子ども、若者、大人、企業、それぞれが環境問題について取り組んでいるのかなと思っています、それぞれの点を線で結べるようなものが欲しいと思っています。そして、大人が子どもに教えるだけじゃなくて、子どもが大人に教える、そんな空間もつくって、世田谷区全体でこの安心して暮らせる町をつくってってもらいたいなと思っています。

以上です。(拍手)

○飯田 ありがとうございました。

最後、オンラインだからなかなか途中、入りにくかったかもしれませんが、SDGs子ども勉強会プロジェクトの櫻井さん、よろしくお願いします。

○SDGs子ども勉強会プロジェクト 「最前線」にいてほしいなと思っています。そのままなんですけれども、日本がカーボンニュートラルとかの最前線にいたらすごい格好い

いなと思うし、それを排気ガスとかが多い東京から出ているというのが一番面白いかなと個人的には思って、そのほうに動いてほしいなと思います。

自分たちのプロジェクトでやってほしいことといったので、こういう珍しい関わりというのを推したいなと思って、環境プロジェクトとかをやっていると、やっぱりSDGsのこととか、フードロスのこととかとつながっているような団体さんとはつながるんですけども、全然関係ないようなところともつながってみたいなと思って、例えばゲーム会社とか、スマホとか、そういうような全然関係ないところからつながって見たら、実はSDGsにつながっていたりとか、環境問題をやっていたりとか、そういうことがあるかもしれないし、そこから新しい発見が生まれるかもしれないと思っているので、珍しい関わりを今後持てたらいいなと個人的には思っています。(拍手)

○飯田 ありがとうございます。

このままどんどん話を進めていきたいところなのですが、そろそろクロージングの時間も近づいてきています。最後に、皆さんにキーワードを出していただいた中では、巻き込むとか、両立、協力、住民の協力、安心して暮らせる町、最前線みたいな、ゼロカーボンとかSDGs達成に向けてすごく重要なキーワードが出てきたかなと思っています。今回のフォーラムが「1人の100歩より100人の1歩」ということだったんですが、確実に地球、社会を変えていくキーパーソンというか、核になる皆さんが今日お集まりかなと思いますし、今日、このメッセージを聞いていただいた皆さんも、確実にインフルエンサーになり得る皆さんだと思うので、今日出た刺激とか、情報とか、つながりというのをぜひ生かしながら、2050年のゼロカーボンの世田谷に向けて、共に活動が続けていければと思っています。本当に来年、再来年、続いていったらいいなと思いますし、2050年に振り返ったときに、あのときフォーラムで言っていたけれども、こうなっているよねという、こうなっているよね？がポジティブな未来になればいいなと思っていますので、これからも一緒に環境活動を続けていきましょう。

今日は御登壇いただきありがとうございました。(拍手)

そうしたら、進行を司会の方にお戻ししたいと思います。よろしく願いいたします。

○司会 飯田さん、パネリストの皆さん、ありがとうございました。

それでは、最後となりますが、世田谷区環境政策部長より本フォーラムの講評をいただきたいと思います。世田谷区環境政策部の中西部長、よろしく願いいたします。

○中西環境政策部長 世田谷区の環境政策部長の中西と申します。今日は皆さん、発表を

ありがとうございました。また、今回のフォーラムの運営で御尽力いただいた皆さん、ありがとうございます。

本当は区長が講評するといいいんですけれども、こういうのは大好きなので、本当はしたかったと思うんですけれども、今日はほかの仕事とバッティングしてしまったため、私のほうから講評させていただきます。ちょっと時間をオーバーしているので、手短かにいきたいんですけれども、話したいことはいっぱいあるんですよ。

取りあえず、皆さんの活動について1つずつ触れながらなんですけれども、今回のキーワードで「1人の100歩より100人の1歩」からという言葉がありましたけれども、皆さんまさにそれに沿った活動をされているなと思いました。

例えばSDGs子ども勉強会プロジェクトさんでは、いろんな取組をやっている中で、メディアを巻き込んでTBSさんと一緒にやっているというふうな取組がありましたけれども、まさに100人に広げていくためにそういった巻き込みをやっているというのはすごくいいなと思いました。

また、SFCさんでは、有志団体というのがステータスになっているという話がありまして、中等部にいる人が高等部に行ったらぜひやりたいねと思っているぐらい伝統を育ててきているというところで、大きなつながり、広がりをつくっていくという取組ができているんだなというふうに感銘を受けました。

東京都市大学さんでは、自分事として捉えていって環境への行動というのを変えていくんだという話がありました。同じような話が上智大学さんでもあって、まずは自分の行動を変えていくことで人を変えていくんだという話がありましたけれども、私も学生の頃、環境を学んでいて、何とかそれを広げていきたいと思っていたんですけれども、なかなか通じなかったんですけれども、やっぱり自分が変わっていかないと、みんなそれを見てくれないというところがあるので、そこを心がけてやっていращやるというのはすごくいいなと思いました。

上智大学さんは、例えばサステナブルコスメみたいなことをやっていращやって、学生さん、若い人が興味を持てるようなことを入り口に行動をやっていこうというところだとか、工夫をすごくしていращやるなと思いました。

あと環境サポーターさんでは、子どもたちが真剣に聞いてくれたという話がありました。出前授業で子どもが真剣に聞いてくれるということは、皆さん自身が非常に真剣に組み立てられていたから聞いてくれたんだと思います。必ず子どもたちが大きくなってい

ったときに、皆さんの授業で受けたことを忘れずに、行動につながっていくと思いました。

あと子ども気候会議の皆さん、私どもと一緒にこれまで活動していただきましたけれども、自分たちだけでやっていくんじゃなくて、つながりを持っていこう、そこに刺激を受けようということで参加してくれたということをおっしゃっていただきましたけれども、まさにそのつながりをつくっていくということをきっかけとして、人の輪が広がって行って、1人の行動ではなくて100人に広がっていくと、そういうことになっていくんだと思うので、皆さんその心がけがきつとほかの人にも通じていくと思いました。

最後のほうのまとめで、いろいろキーワードをいただきました。大人たちに対するメッセージみたいな感じでいただいたと思っているんですけども、私たち大人たちは、これまでこうやってうまくいって来たんだから、今までどおりでいいじゃないかというのを頭のどこかに持ったままなんです。こういうのを生存者バイアスって言いますけれども、なかなかそれはしみついていて壊すことは難しいんですよ。でも、そうじゃないんだと。その考え方というのはもう古くて、今こんな状況になっているんだから変わっていかなくちゃいけないんだよということが、若い皆さんから発信されていくことで、大人たちの考えというのも少しずつ変わっていくと思っています。

そういったことでいろんなキーワードをいただきましたけれども、例えば「みんなを巻き込む区へ」という話があったんですけども、まさに区役所の役割として、大人も、子どもも、若者もみんな巻き込むような場をつくって行って、そういった中で、特に大人世代にこびりついた考え方というのを少しずつ変えていくという取組が必要だと思いました。

また、両立という話がありました。なかなか環境行動ってストイックにやらないんじゃないかという思い込みがあるので、今までのやり方を変えたくないよねというところがあるんですけども、でも、それはそんなことはない、両立できるんだよというメッセージを出していくことで、だったら環境行動もできると考え方が変わっていくのかなど、こういったこともありました。

ちょっとそれとは対極にあるかもしれないんですけども、都市大学さんが言った制約の中での新しいライフスタイルをつくっていくんだという、言葉の上ではちょっと対極にあるようで、実は同じだと思ったんですけども、両立をできるような新しいライフスタイル、こういうライフスタイルだったら、環境行動もできるし、自分たちの生活もハッ

ピーにできるよというような、そういうライフスタイルをつくっていくことが、まさに環境問題を解決していくキーワードの一つになるかなと思いました。

また、住民の協力が必要だというお話がありましたけれども、本当に一人一人が変わっていかないと、環境問題は解決できないです。その協力を求めていくのはまさに行政の役割でもありますし、その中に皆さんのようなメッセージを持っている方が入っていただくことで運動を大きくしていただけるのかなと思っています。今回のフォーラムは、まさに皆さんのような環境に関心のある人の集まりとなっはいますけれども、先ほどの話の中でも、もっと全然違う人たちとつながっていけば、この輪が広がるんじゃないかという話がありましたので、このイベントも含め、環境イベントというのをいろんなつながり、特に違う人たちとつながっていくようなつながりづくりの場になるような、そんな工夫もしていければと思っています。

皆さんからいろんなアイデアをいただきましたけれども、区役所としても、私たち大人世代としても、それをぜひ受け止めさせていただいて、環境問題、気候危機問題というのを、時間の制約がある中で解決できるような、そういう大きなうねりにしていければと改めて認識いたしましたので、今後も皆さんと手を携えて協力しながら運動を進めていければと、そのように思いました。

ちょっと長くなりましたけれども、講評は以上です。(拍手)

○司会 中西部長、ありがとうございました。

これにて若者環境フォーラム2023は終了となります。本日は御参加、御視聴いただき、誠にありがとうございました。(拍手)

それでは、登壇者の皆さん、画面をオンにして視聴者の皆さんに手を振りましょう。本日はありがとうございました。

午後 4 時40分閉会